

# 腸脛靭帯摩擦症候群を疑った変形性膝関節症患者 ～膝外側部痛に対するプレッシングアプローチ による介入の一症例～

八潮中央総合病院 吉永晃大

本演題に関連して、筆頭著者に開示すべき利益相反はありません

## 【背景】

- 腸脛靭帯摩擦症候群はランニングの足部接地後、膝関節屈曲30°弱で大腿骨外側顆と腸脛靭帯(以下ITB)の後方で摩擦が生じ、これを繰り返すことで限局性の炎症を起こす
- 症状の範囲としては膝外側部痛、大腿骨外側上顆付近にみられる(Jodiら2015)



## 【症例紹介】

### 【症例】

- 【年齢】70歳代 【性別】女性
- 【診断名】両膝OA
- 【主訴】膝が痛い
- 【Hope】階段昇降、立ち上がり時の痛みが減るように
- 【既往】特になし
- 【画像】両膝関節内側に骨棘形成が認められたが、関節裂隙の狭小化はわずか (kellgren-lawrence 分類 I と推測)
- 【現病歴】2,3年前 左膝疼痛＋  
1年前 右膝疼痛＋  
4,5日前より両膝疼痛＋  
外来リハビリ開始となる

### 【理学療法評価】

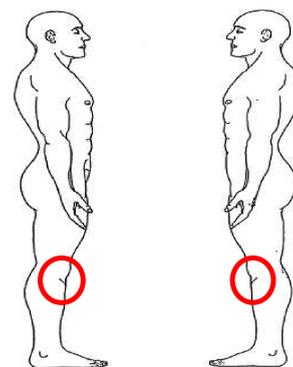
- 【ROM】股関節伸展に制限(両側0°)
- 【MMT】股関節伸展3+レベル・内転2レベル、膝関節伸展4レベル
- 【整形テスト】Ober test陽性
- 【神経ストレステスト】陰性

### 【疼痛評価】

- 【部位】：両膝外側、ITB付着部付近(Rt>Lt)
- 【質】：鋭い
- 【程度】NRS7-8(Rt)
- 【左右差】：Rt>Lt
- 【日内変動】：特になし
- 【増悪要因】：動作時、天気悪いとき
- 【軽減要因】：安静、温める

### 【問診】

- 荷重位にて膝関節屈曲していくと再現痛＋
- active膝屈曲にて再現痛＋、passive膝屈曲にて疼痛－
- 右大腿骨外側上顆圧痛＋
- ITB-外側広筋、腸脛靭帯-外側ハムストリングス(以下外側ハム)の滑走性低下(靭-筋間粗い)
- 靭-筋間部の圧迫で再現痛＋



## 【考察—試験的治療】

### 【痛みに対する考察】

内転筋群の筋力低下による膝外側支持機構の負担増大

1日中歩き回るなど日常生活の活動量増加

ITBと大腿骨外側顆の衝突による腸脛靭帯摩擦症候群

or

ITBと隣接する筋の問題  
ITB-外側広筋、外側ハムの滑走不全

### 【試験的治療】



疼痛軽減がみられ階段昇降、立ち上がり動作の円滑さが向上

### 【プログラム立案】

- ①ITB-筋間リリース：プレッシングにて
- ②股関節伸展ROM-ex
- ③大殿筋・中殿筋の筋力トレーニング

## 【プレッシングアプローチ】

- プレート大を使用
- 手技はPressingを選択
- 治療部位はITB-外側広筋、外側ハム間とした



### 【経過】

治療は計36回、約3ヵ月実施し、疼痛がNRS8から0と改善が認められ、階段昇降、立ち上がり時の動作改善に繋がった

### 【考察】

本症例は股関節周囲の筋力低下、日常生活の活動量増加による膝外側支持機構の負担増大が考えられた。負担増大により大腿筋膜張筋・ITBに機能不全が生じ、疼痛が出現していたと考察する。櫻井らによると、プレッシングを使用するメリットとして、狙った深層の軟部組織に的確に柔軟性が出る、指でアプローチするより狭い部位や深層筋の触知が可能。繰り返し行ってもセラピストの疲労感が少ないという点が挙げられる。今回上記の機能不全に対し、プレッシングアプローチを用いたことにより、大腿筋膜張筋の緊張緩和、ITBの滑走改善に繋がって疼痛が消失したと考える。

## 【結語】

クリニカルリーズニングを用いて導き出した大腿筋膜張筋の過緊張、ITB-外側広筋、ITB-外側ハムストリングスの滑走不全に対し、プレッシングアプローチを含む徒手理学療法は治療手段として有効な手技であると示唆された症例であった。